■「(まとめ) 選択肢型国語の理論と注意点」

Ⅰ　理論　　詳細は、「解法の理論―選択肢型国語」参照。

選択肢型国語とは、本文との整合性がない選択肢を排除するゲームである。

Ⅱ　注意点

①**構成（切れ目）**と**ゴール**を意識して読む。
　▽評論―〈問い→答え〉、小説―〈変化〉に注目。
　　※古文・漢文も、評論系なら〈問→答〉、物語系なら〈変化〉
②ずばり選ぶ　**選択肢が根拠としている箇所を特定せよ。**
　▽必ず本文に根拠がある、と信じて。
③迷う　二択まで絞ってから→**本文と選択肢を比較**せよ。
　▽残り時間をここに投入！　確信を得るまで粘る。選択肢間の比較は二次的。
　　まず本文との比較を。

④**語句の意味問題は辞書的な意味で**選ぶ。
　▽その範囲内で複数あるときは、文脈で決定。小説でも古文漢文でも。
⑤（練習時）**手元に辞書**
　▽知識的欠落は、辞書・単語集・文法書・漢文必携等で即チェック。即記憶。
　　一冊のノートにまとめていくのもいい。

Ⅲ　細かい注意・ヒント
①**漢字**　同じ字が出る可能性大（∵同音で五つ以上ある字しか出ない）。
　　選択肢の語すべてを書く練習を。
②**人物**に注意　□ で囲んだり、「～は」と書き込んだり、せりふの上にメモしたり。
③**指示語**に注意　指示語が含まれた傍線部は、まず指示内容の確定。
④選択肢の**文末**　文末近くを比較するだけで見当がつく場合がある。
⑤はっきりしていない・違和感のある選択肢…が、正解のときもある！　**×で**絞れ。
⑥比喩等の**レトリック**の問い…が、あるときは予め注意しつつ読む。
　　後からでは見えにくい。
⑦「**このとき**の心情」など　「このとき」の範囲は場合によって違う。慎重に。
⑧**注**のフル活用　注だけではない、タイトルも大きな情報源になることあり。
　　古典作品は、文学史の知識、いつの時代かも大事な情報になる。
⑨漢文と英語　英語の構文感覚が使える。
　　句法を整理するときも、英語との類似を意識せよ。
⑩和歌も構文　句読点を打ち、SVO を捉える。「。」が打てたら、句切れ。趣意の芯をまずつかむ。
　　例「●は○が恋しい」→すると、比喩の意味（とか該当人物）が見えてくる。

○ワイドに見る目とクローズアップする目、見渡す目と狙う目、全体を見る目と部分を見る目、この組み合わせ、焦点の切り替え感覚が身についてくればしめたもの。追いつつ、立ち止まり、見渡し、迫る。球技の選手みたいに。